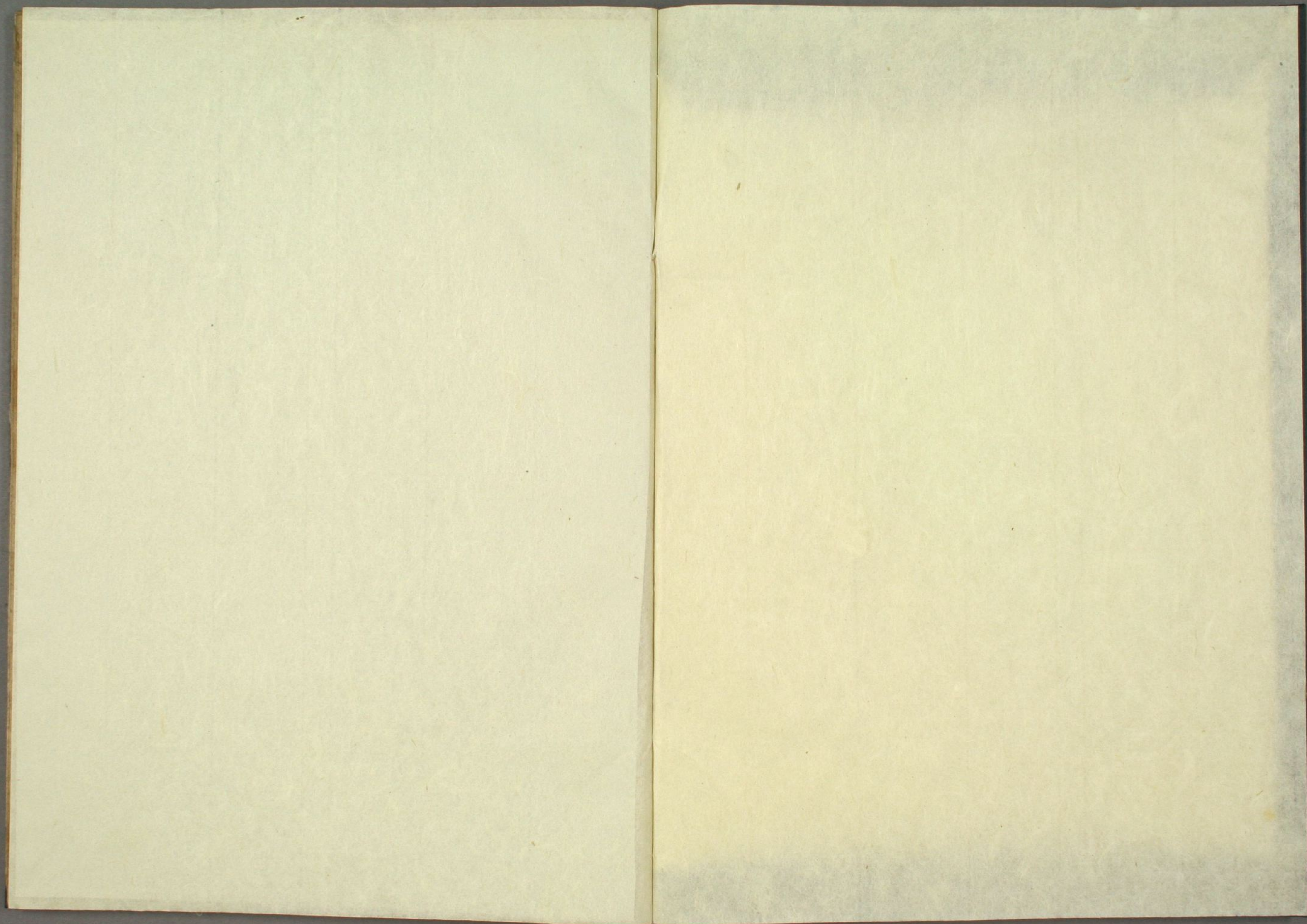




明星抄
桐壺

特別
へ 2
4867
52





136
/
070

桐壺



いづれの時か
 大号事説く多し
 志なきあしみの古今序はし
 の源とては江澄觴入楚無底
 書りし原も其のあさく
 入りしり
 巻末の花多し
 發端は伊勢集より
 といふ事ハ肝要に醍醐の時
 とい物法のみし人
 故事は
 寓言より又
 筆法よ
 事と載し盛者必衰の
 よめりす

いづれの時か
 大号事説く多し
 志なきあしみの古今序はし
 の源とては江澄觴入楚無底
 書りし原も其のあさく
 入りしり
 巻末の花多し
 發端は伊勢集より
 といふ事ハ肝要に醍醐の時
 とい物法のみし人
 故事は
 寓言より又
 筆法よ
 事と載し盛者必衰の
 よめりす

凡日本の國史三代實錄光孝天皇仁和三三年八月辛未迄其後
國史を以て身け物後醍醐天皇より亨守は國史を以てん
の心とせりは孔子の春秋も哀公を以て魯哀公の周敬王
の時代より其後た在明用元王貞定王の時代より考王
夷烈王以下の事を以て亨守は司馬溫公通鑑を以て考王
夷烈王三十二年より亨守は司馬遷の史記を以て考王
物法字多翻と云ふは此の如くお叶つる也

女師
更衣 位皇の位に於ては女師と云ふは女史也

時々のまきふー時々の時と云ふは時宜と云ふは春と云ふは

けめりりしはなとーまのりと云ふは

下流の更衣の事なりと云ふは

いふは下流の人の嫉妬の心と云ふは

今上下防令即難未備六十有九

いふは上貴妃の事なりと云ふは

紂の姐と愛一周幽王廢妃と云ふは

て云ふは傷貴妃の事なりと云ふは

位史記の姐と云ふは

姐と云ふは

いふは

ち大御言の以下更衣の産姓と云ふは

母心のかたむけ母心の人なりと云ふは

いふは孤獨の身なりと云ふは

いふは馬玩を有與

一のみなし朱雀院し 右大臣弘徽殿の又し
よをたりし一寄重し

これゆひひんし 奉授のりたるを御座非摩と云々其の成法と云々

たはしの成法と云々し 一のみなしよりこれおほしけりし

けめりしと云々の人むはくし 女侍更衣別殿に御座

しと時くこそ御座し 人の典侍との御座し

うすめりし 寵愛の甚きこと御座し

坊めりし 上すめりしこと上二膳しきし

けし 是より更衣のし

中くすり物ながし け物後中くと云詞いほくも妙し

めりし 寵愛をいひし

あつ あつと云ふこと御座し

し 桐臺の御座し

し 馬道と云ふこと御座し

あ 花名と云ふこと御座し

は涼殿し 涼殿と云ふこと御座し

め け後涼殿の更衣誰も

の けのり後涼殿より

これ 三歳着袴例河海に見たり

し 更衣と同し

て 後涼殿より

五 六日し

あ 退仕の御座し

み 御座し

あ 御座し

あ 御座し

あ 御座し

あ 御座し

あ 御座し

あ 御座し

あ 御座し

文政の内し

かたりとて一りおれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
う海外もいさむいさむ

いづれおれまゝなり一りおれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

中のおれまゝなり一りおれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

三位のうす井一三のうす井と後し

はらわしはらわしあし一三のうす井と後し
うす井と後し

あつてそと一三のうす井と後し
うす井と後し

おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき
おれまゝなり奇し時ものそそし哀なりき

まゝえあすまゝくー 母君の身らんるのいさあけいりあひりぬい
あひりぬい

あひりぬいー 令婦れ詞

あひりぬいれー ありあけいりあひりぬい
あひりぬい

あひりぬいー 是より勅書の詞

あひりぬいー 母君の詞

あひりぬいー 室平の詞

あひりぬいー 川宮人よきまぬらう
あひりぬい

あひりぬいー ちりあひりぬい

あひりぬいー 令婦の詞
あひりぬい

あひりぬいー 母君の詞
あひりぬい

あひりぬいー 更衣在時の詞
あひりぬい

あひりぬいー 横矢あまのれ
あひりぬい

あひりぬいー 籠の基すあ人のそ
あひりぬい

あひりぬいー 令婦の詞

あひりぬいー 月よりあの色ー ます
あひりぬい

あひりぬいー ちのあけむ
あひりぬい

あひりぬいー 令婦の詞
あひりぬい

あひりぬいー 母君の詞

あひりぬいー ちりあひりぬい

あひりぬいー 令婦の詞
あひりぬい

あひりぬいー 母君の詞

半長は... 巻一

長根奇の... 事不見

... 則後...

... 事...

... 母君の...

... 更衣の...

... 母君の...

... 母君の...

... 母君の...

... 母君の...

... 母君の...

... 母君の...

... 母君の...

幻術の...

... 貴妃の...

... 貴妃の...

... 貴妃の...

... 貴妃の...

... 貴妃の...

... 貴妃の...

... 貴妃の...

... 貴妃の...

... 貴妃の...

... 貴妃の...

... 貴妃の...

... 貴妃の...

... 貴妃の...

月ひていづまふりあり 源氏名し

坊にまかりあり 朱雀院の御子 醍醐四代より東宮文房太子 保明 蒙

後皇子慶頼王立行又早世其後朱雀院立行也

女房もいひしり并給あり 弘徽殿の御安堵あり也

女房もいひしり一更衣の母君源氏名は親母也

女房もいひしり一更衣の時い何の御子とまふりあり也

けいひい思きりて惣傷あり也

女房もいひしり一朱雀院の御一腹也 外著人必可見者在屋中見之

宇女もいひしり一何れもあり

鴨腹鼓もいひしり一何れもあり今の御子とまふり也

右弁の御子もいひしり一何れもあり相人右弁の御子也

あやの御子あり

女房もいひしり一又まればいひしりあり

けいねる御子もいひしり一何れもあり國の御子とまふり也

女房もいひしり一天下とまふりありいづれもいひしりあり

ていよの御子あり

女房もいひしり一いづれもいひしり一朱雀院御子也

女房もいひしり一いづれもいひしり一其の御子とまふり也

女房もいひしり一いづれもいひしり一其の御子也

女房もいひしり一いづれもいひしり一其の御子也

女房もいひしり一和國の御子とまふり也

女房もいひしり一其の御子也

女房もいひしり一天下とまふりありいづれもいひしりあり

ていよの御子あり

古昔御子の御子とまふり也

女房の御子 系圖あり

三代の御子とまふり一何れもいひしり一其の御子也

女房もいひしり一いづれもいひしり一其の御子也

女房もいひしり一いづれもいひしり一其の御子也

女房もいひしり一いづれもいひしり一其の御子也

夢心の子にー紫上の又し扱も或る也
 此人の素人より也ー桐壺更衣の族姓なりと云ふよりして
 人もそ務まりよーこれの族姓人のそ務まりと云ふこと
 には一悔まりのさねと一ちりりき出ぬこと
 一いつのふしあるよー女侍らの中に藤壺のそくありませう
 一いふと云ふはにーほぐの名更衣のちれりては子も今
 一旧儀のそけの法好まつそをうつくしく思はれ
 一人もたわまきーまののちるほぐのそくもいふに
 且好あり
 こまて人の女侍と云ふは也ー更衣の後のほぐのそく
 一け有重と申中つては好ありなりーちりりほぐと云ふは
 右のそくはよりー弘慶殿のそくらのそく
 けんくも云ふーある
 一むつます殿ー清涼殿也。何海
 大抵大なる人ーある
 一つーそまりのほぐはに一人はほぐ一物一春宮の元服は南殿

一して堂上りて拜ありと云ふ堂下りてありは。これほぐと云ふは
 ありと云ふも只ほぐの名儀進退と感りうらゝか
 一ちりりひよー殿に
 一かゝ常きつとほぐもあるー今いまのそくは
 一これほぐ（貴）ーあること
 一いふはさきーいふけさきと云ふ事ありと云ふは
 一いふはさきーいふけさきと云ふ事ありと云ふは
 一夢の人の事と云ふこと
 一してひらりー葉の縁して女と云ふ今元服をわらうと云ふはほぐ
 一そのいふにさきよる也
 一見ゆのりよみさきりー元服の福とほぐ
 一なりひらりーなりりてとほぐ一なりよる也
 一物ーはるん 一とんきーはるん
 一いふはさきりーいふけさきと云ふ事ありと云ふは
 一女君のすうりいふけさきと云ふ事ありと云ふは
 一始終さきと云ふ事ありと云ふは
 一くくのサねー後の致仕のほぐ

